

## ★ホッケーU-18日韓交流事業試合結果速報（戦評）

期間：平成25年11月5日（火）～11月10日（日）

会場：大韓民国光州広域市朝鮮大学ホッケーグラウンド

### <日本チーム>

・チームマネージャー	八張	慎	徳島県立阿南工業高等学校
・ヘッドコーチ	穴田	直樹	富山県立石動高等学校
・アシスタントコーチ	田村	保	岩手県立沼宮内高等学校
・ゲームアナリスト、帯同審判	益田	哲寿	熊本県立八代南高等学校
・渉外(通訳)	朱	光珍	福井県体育協会
・選手			
No. 1	G K	千田 拓美	奈良県天理高等学校
No. 2	G K	島崎 敦匡	岐阜県立岐阜各務野高等学校
No. 3	D F	大堀 洋輝	宮城県築館高等学校
No. 4	D F	谷光 未有	奈良県天理高等学校
No. 5	D F	栗原 雅弘	福井県立丹生高等学校
No. 6	D F	内田 健斗	島根県立横田高等学校
No. 7	D F	川村 敬亮	栃木県立今市高等学校
No. 8	M F	千葉 健寛	岩手県立沼宮内高等学校
No. 9	M F	田中 海渡	奈良県天理高等学校
No.10	M F	宮口 和樹	滋賀県立伊吹高等学校
No.11	M F	青山 力也	福井県立丹生高等学校
No.12	M F	和田 友道	滋賀県立伊吹高等学校
No.13	F W	林 聡馬	富山県立石動高等学校
No.14	F W	小沢 諒	岩手県立沼宮内高等学校
No.15	F W	福田 健太郎	島根県立横田高等学校
No.16	F W	永井 祐真	岐阜県立岐阜総合学園高等学校
No.17	F W	大崎 哲寛	岐阜県立岐阜総合学園高等学校
No.18	F W	渡辺 晃大	福井県立丹生高等学校

### ○第1戦 日時：2013年11月6日（水）10：00開始

試合結果 日本 3－5 韓国 ※前半（日本3－3韓国）

日韓交流戦、初戦は日本のパスバックで試合開始。3分韓国のP CはG Kの千田（天理）が落ち着いて防ぐ。12分日本はP Cを得て、谷光（天理）がドラックからゴール右下に決め日本が先制する。20分韓国はライト攻撃から、最後はリバースシュートを決め1－1の同点とする。24分日本のシュートは韓国G Kが弾き、これがカウンター攻撃になりゴールを許し、1－2と逆転される。28分田中（天理）のゴール前への打ち込みに川村（今市）が合せ、一度G Kにセーブされるが、リバウンドボールを再び川村が落ち着いて決め再び2－2の同点。30分日本75ヤード手前でボールを受けた田中が相手D Fを2人かわしサークルインし、右45付近からヒットシュートを決め3－2と再びリードする。しかし、この直後の31分韓国にP Cを決められ3－3で前半を折り返す。後半、韓国42分ライト攻撃から、リバウンドボールを決め、4－3と再び韓国がリード。日本46分、決定的なシュートチャンスをつくるが攻めきれず。さらには17分、21分、22分と日本はP Cのチャンスを得るが決める事ができない。68分韓国、レフト攻撃から得点を決

め5-3とリードを広げる。シュート数及びP C数は韓国を上まわったが、決定力の差のあらわれた試合内容であった。

※シュート数：日本-10、韓国-7

※P C 数：日本-4、韓国-2

※通算戦績：1戦中（1敗）

## ○第2戦 日時：2013年11月8日（金）15：00開始

試合結果 日本 1-1 韓国 ※前半（日本1-1韓国）

第2戦。初戦と同様にトップFWの1人は相手コートのバックラインに位置させる攻撃を試みた。また、組織的守備を意識しP Cを簡単には取られない事と笛が鳴るまでプレーすることを確認し試合に臨んだ。前半開始から両方とも中盤でのせめぎ合いが続き、なかなかサークルインできずに時間が経過する。29分日本、途中交代した千葉（沼宮内）からのセンターリングに渡辺（丹生）が反応、一旦ボールをそらす、DFとGKをかわし先制する。2年生コンビの活躍で試合を動かした。しかし、その直後、自陣からのトラップミスからP Cを与えてしまい、これが決まり韓国が1-1の同点に追いつく。後半開始、日本は怒濤の攻撃を仕掛け、39分、40分、41分とP Cを得るが、ポストに嫌われる不運もありなかなか得点できない。さらには46分日本はビックチャンス状況をつくるがこれも決められず。この後は一進一退の緊張感ある攻防が展開される。68分韓国、日本は不用意な反則からP Cを与えてしまうが、GKの島崎（各務野）の好セーブで難を逃れる。結局1-1の引き分第2戦を終了した。

※シュート数：日本-5、韓国-3

※P C 数：日本-5、韓国-2

※通算戦績：2戦中（1分1敗）

## ○第3戦 日時：2013年11月9日（土）10：00開始

試合結果 日本 3-0 韓国 ※前半（日本1-0韓国）

最終戦を勝ち通算戦績をタイにしたい日本は総合力では韓国よりも上と分析し、前半から積極的に攻撃を仕掛けた。7分日本、福田（横田）のリバースシュートは惜しくもGKに弾かれる。11分、16分と韓国は日本のDFのミス突き得点の場面をつくるが決められず。19分日本、センター付近でボールキープした内田（横田）が相手の意表をつく好ドリブルから敵を4人かわし、最後はセカンドゴールにフリーでいた渡辺（丹生）に絶妙なパスを送り難なく先制する。この後は互いに中盤でのせめぎ合いが展開され前半が終了する。後半、追いつきたい韓国は怒濤の反撃開始。47分韓国のシュートをGK島崎（各務野）が好セーブ。48分、53分、61分と韓国はP Cを得るがこれを1番騎の谷光（天理）が出足の鋭いスタートからスティックで防ぐ。63分日本、レフトサイドで上手く繋ぎ、小沢（沼宮内）がバックライン沿いで2人かわし、最後はパスを受けた田中（天理）が落ち着いて決め、2-0と韓国を突き放す。この後は韓国の猛攻が続くが日本守備陣は落ち着いて対応しチャンスをつくらせない。そして69分、田中、福田と絶妙なパスワークから最後は川村（今市）が3点目を決め、勝負を決定づけた。

※シュート数：日本-6本、韓国-6本

※P C 数：日本-0本、韓国-3本

※通算戦績：3戦中（1勝1分1敗）